



発行 上田高等学校同窓会 中南信支部事務局  
題字 (故)松岡翠風(仁太郎)氏 (39期)  
安曇野市に居住し、元全日展書法会副会長等 歴任

# 会員の皆様へ 支部長 菅谷昭 (60期)



「夢の共演」を終えた 小澤征爾さん、二山治雄さんと

中南信支部同窓会会員の皆様におかれましては、その後もお健やかに、そして充実した毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、この七月には南木の動向に目を転じますと、曾で台風11号による集中豪雨により、大規模な土砂災害が発生したほか、その後中国地方、近畿、北海道北部など、全国各地で集中豪雨による浸水被害や土砂災害が相次いで発生しております。

とりわけ、広島市を襲った土砂災害は、多くの死者・行方不明者をもたらす等々。一体日本はどこへ突

甚大なものとなっております、改めて自然災害の恐ろしさや危機管理の重要性を痛感しています。ただこのような想定を超える異常な状況が一過性ではなく、今後継続して発生するような事態となれば、いよいよ地球規模の本格的な気象変動の到来ということ

本年二月、スイス・ローザンヌ国際バレエコンクールで優勝した松本市出身の高校生、二山治雄君が、先日、「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」の最終日に、世界的マエストロ小澤征爾氏の指揮の下、伸びやかな感動を与えてくれました。世界に向けて飛び立つ若者への小澤氏の心からなるエールを背に、彼はバレエ留学のためサンフランシスコに旅立ちました。このよう

## ～ 第21回支部総会のご案内 ～

■日時: 11月15日(土)

14:30 開場  
15:00～15:45 第一部 : 総会  
16:00～16:45 第二部 : 記念講演  
17:00～18:45 第三部 : 懇親会

■会費: ¥7,000 (学生の方は¥3,000)

第一部のみ参加される方で、'14年度支部年会費1,000円を払われた方は無料です。  
返信葉書で出欠をお知らせください。

■会場: 松本ホテル花月 松本市大手4-8-9 電話 0263-32-0114

### 記念講演 「新規糖尿病治療薬「スーグラ錠」の創薬について」

寿製薬株式会社 代表取締役社長 富山 泰 (とみやま ひろし) 84期



今年の4月より国内では寿製薬、アステラス製薬、米国メルク社(MSD)と3社が併売することになった「スーグラ錠」は「常識を覆す画期的な糖尿病新薬」(信濃毎日新聞)と評される。  
この創薬を通じ、研究から市販後調査の各局面で所属組織の異なる上田高校卒業生がどのような形で係ったのかご講演いただく。

#### 略歴

平成4年3月、東京薬科大学卒業  
平成9年3月、東京大学薬学部博士課程修了  
同年より平成11年まで、米国アイオワ州立大学薬学部 博士研究員  
平成11年、寿製薬株式会社入社  
平成25年7月、同社代表取締役社長に就任  
所属学会:  
米国化学会(ACS)、米国臨床癌学会(ASCO)、日本糖質学会、有機合成化学協会、日本薬学会

#### 支部からの お知らせ

- 職域幹事交代 県職幹事が、宮下覚さんから高野美恵子さん(松本消費生活センター)に交代しました。
- 支部会則変更 郵便事務のため支部会則を一部改訂しました。(平成26年8月4日)
  - ・第3条: 会の所在地を現幹事長に合わせ変更
  - ・第5条: 副支部長を現行実態に合わせ2名から4名に変更
  - ・第9条: 設立年月日を条文に追加

### 職場訪問 《地元カンパニー》の巻

故郷を離れ都会で働きながら「地元を元気にしたい」と思いを抱く信州人は少なくない。こんな人たちの地元愛をつなぎ、地域の活性化に結び付けているのが、農産物のカタログギフト販売などを手掛ける「地元カンパニー」(東京都渋谷区)だ。二〇一二年に会社を設立した社長の児玉光史さん(35)は95期生、昨年都内からUターンし広報を担当する宮嶋絵美子さん(34)は96期生に話を聞いた。



児玉 光史 さん

自分には、もっとほかにできることがあるはずだ。〇七年、四年間勤めた会社を辞めた。上田高校に首席で合格した。厳しい練習で知られる野球部に打ち込みながら東大に入り、東京六大学野球で2期連続ホームラン王の成績を残した。そんな経歴を誇る児玉さんの人生に転機が訪れた。

「上武石のアスパラガスを都内で売ってみよう」。両親が生産したアスパラガスを都内の野菜販売会に出し、好評を得たのをきっかけに、都内にいる農家の子どもたちと連携し、実家や地元の野菜を持ち寄り販売する「セガレ・セガール」プロジェクトを立ち上げた。

新しい物に飛び付くマスコミから注目を浴びたが、利益はわずかしか出なかったという。「もがいてもうまくいかない」。知人の会社を手伝い食いつなぐ時期が続いた。

「一年、アスパラガスなど地方の農産物や加工品を掲載し、その中から気に入った品物を選ぶカタログギフトを

友人のデザイナーと作り、販売を始めた。「友人の結婚式でカタログギフトをもらうが、なかなか欲しいものがなかった」。これまでにない発想が好評を得た。一二年四月に株式会社地元カンパニーを設立した。

経営の主軸に据えるカタログギフト事業は、順調に拡大した。「東信州」「中信州」「北信州」「南信州」「信州の春」「信州の夏」「信州の秋」「信州の冬」「上田市」をテーマに県内外の農産物や加工品を載せた計十種類のカタログを扱う。それぞれの特産品の紹介には、作り手である親と地元を離れた子どもたちの写真を一緒に掲載し、農業や地域への思いをメッセージとして盛り込む。生産者にとって販路拡大のチャンスにな



東信州のギフト

る。利用者は引き出物や歳暮、中元で自分の出身地の特産品を周囲の人たちに勧められる。カタログギフトを手にした人は、注文すれば農産物が旬の時期に届く。「地元」の物を贈って、地元にお金が落ちる。日本中の地方にカタログギフト事業を展開していきたい」と意気込む。

都会の地方出身者のUターンを促す事業にも乗り出した。県出身の大学生らが東京に集う「信州若者一〇〇〇人会議」を企画。一三年六月初回には約七百人が集まり、阿部守一知事も出席した。

都会で暮らす若者に、故郷のため何ができるのか考える場になっている。昨年九月には、上田市に事務所を開設し県内出身者を中心に社員十人を抱える。故郷を思う人たちがつながり、その人間関係の中で、身近な地域のために役に立つことをするのは心地良い。自分の理想に少し近づいてきたと実感している。



宮嶋 絵美子 さん

だ。上田市に事務所が開設されたのを機に都内からUターンし、地元カンパニーに転職した。まだ一年しか経過していないが、児玉さんの片腕として頼られる存在だ。カタログギフト事業を広げるための営業活動を担う。週末には、高田馬場や代官山に開設している特産品の販売スペースを切り盛りするほか、信州にゆかりのある人たちが集う「信州ゆかり飲み」などのイベントの開催を仕切る。「仕事が身近な地域に直結し、自分の事として考えられる」と、地に足の付いた暮らしに満足している。

幼いころは転勤族の父親に合わせ、県内外の数カ所を転々とした。「その中で、やはり出身地の上田が最も好きな場所」だった。上田市第三中学校を経て、上田高校に入学。高校時代は、水泳班で活躍する健康的な美女だった(現在も...)。文化祭や体育祭で振りまく爽やかな笑顔にやられて、恋に落ちた男子生徒は少なくなかった(同年代だった取材記者談)。在校中は、「地域の文化やコミュニケーション、街づくりに興味があり、そういう勉強がしたい」と勉学に励み、立命館大学に進学。だが、明確な目標はなくアルバイトに明け暮れる学生時代へ

### 転職

#### 《伊藤 清志 (71期)》

今年の二月に、三七年間在籍したセイコーエプソンを定年まで一年を残して早期円満退職し、子供用品の西松屋チェーンに転職しました。

定年後も自分で選んだ仕事があったこと、子供二人も就職して自分の生き方を変えてみたかったこと、雪かきにも飽きたので暖かいところにも住んでみたかったこと、小諸で一人暮らしだった母が兄の近くの施設に入ってくれたこと、等々いろいろ背景がありましたが、企業年金の支給基準見直しも背中を押してくれました。家内も同じ考え方で、彼女が周囲に転職の話をする「えっ!海外じゃないの?」という反応が多かったとのことでした。



伊藤 清志 さん

転職業者はホームページで登録し、「なるほど履歴書はこう書くのか」等と感心しながら、自分の仕事を振り返る良い機会になりました。転職業者から現在の会社を含む引き合いがあり、唯一面接を受けた会社に転職することにしました。西松屋は、何回かテレビ番組にも取り上げられましたが、徹底したコスト削減による低価格を実現すると共に、電機メーカーO.B.を積極的に採用して、プライベート(自社)商品開発

に取組んでいきます。マーケティングという肩書きで、企画から、仕様決定、調達先選定、販売数量、販促資料、在庫管理まで一気通貫で担当します。今まで経験した「設計が悪い」とか「営業がへばい」等の言葉と無縁な、言い訳のできない環境に身をおいても良いかなと思っただ次第です。



上田高校同窓会・中南信支部幹事会 画 武村洋治(58期)

も盆も正月も関係ない「完全週休二日」に少々面食らっています。

転職にあたって社長から言われたことは、チェーンストア理論を勉強することと海外出張をこなすことの二点です。前者は日本リテイリングセンターが提唱する「物価の高い日本では年収六〇〇万円でも、欧米の年収三〇〇万円レベルの生活しかできない現状を、チェーンストアが中心となって打破すること」をセミナーや海外研修で習得中です。後者は、今までは欧米のお客向けの出張が主でしたが、現在は主に中国を主とする製造国で、帰国後も中国なまりの強い英語の電話でのコミュニケーションで苦労しています。電子メールがあつて本当に良かったと思っています。

為替に関しても、今までは円高に悩まされていましたが、現

在は円安に悩むという全く逆の立場です。

初めての関西暮らしですが、複数の友人が友人を紹介してくれたり、米国駐在時代の知り合いが近くにいたりで、家内ともども楽しんでます。最初単身赴任した本社三宮、その中間の明石に住んでいます。それぞれに特徴があり、良い刺激になります。幸い今年はその程暑くなく、「いつかはこんなもんじゃな」と言われながら、それでも信州とは全く違う夏を経験しました。中南信支部では支部長はじめ皆様に大変お世話になりました。下形先生には幹事長を引き継いでいただき、創刊に携わった会報も継続していただいております。皆様の活躍を関西の地より祈念しております。

写真真の明石城は、一六一七年に信州松本から国替えになった小笠原忠貞が築城しました。中堀の内側は兵庫県立明石公園として整備され、日本さくら名所百選に指定されています。

くだった。

就職活動を始めた頃、自分が本当にやりたかったことに気づいた。バブル崩壊後の長引く不況で就職氷河期とされた当時、一流大学に入り大手企業に就職すれば幸せな人生を送ることができると、価値観は崩れ始めていた。「私がやりたかったのはインテリア」。大学卒業後、名古屋市内に移り住みインテリアを学ぶ社会人学校に通った。同時に店舗の内装施工を手掛ける会社に入社し、装飾やデザインを担当した。二十代後半に都内の店舗デザイン会社へ転職し、デザイナーとして業務を任せられるようになつた。さまざまな制約の中で柔軟に発想し、依頼主の望みを形にしていく作業に没頭した。

ただ、三十歳を迎え「いつかは帰ると考えていた地元のために貢献したい」という思いがもたらされた。「信州ゆかり飲み」で上田高校の一年先輩の児玉さんと知り合い、その活動に共感。「今度開設する上田事務所働かないか」と誘われた。約十年ぶりに帰ってきた上田市の中心市街地は、転換期を迎えている。日本たばこ産業跡地に大型商業施設が開店する一方、中心部の商店街は衰退している。都会での経験を生かし「若い人が上田に戻りたくなくなるような店や商店街などの場づくりをしたい」と思い描く。



**林 庄平 (52期) 下諏訪町**

NHKラジオ深夜便の愛好者である。「往年の名浪曲師 廣澤虎造を語る」を聴いて、浪曲界の盛衰と廣澤 曲師の代表的演目「清水次郎長」の森石松のセリフに、戦後の甘味不足時代に桑畑の周りの十本余りの渋柿を剥いて干柿を作る夜なべ作業の手伝い時、ラジオで楽しんで節回し、語り口調を懐かしく思い出した。

**小池 健司 (54期) 岡谷市**

後期高齢者の仲間入りで地区の役員を頼まれ、のんびりしたいのですが、区の雑用係です。外にはばかり出ていたので、初めて地区の様子が分かってくれました。

**清水 強 (54期) 松本市**

福島で二十年間暮らした身にとりましては、地震、津波、原発爆発に見舞われた彼の地のことが一日たりとも頭から離れません。平和な日々が続きますことを祈るや切なりであります。

**星野 伸男 (64期) 岡谷市**

支部会報で同窓の皆さんのご活躍を拜見させて頂いてます。松本山雅の塩沢選手も同窓と知り、これからの応援に熱が入ります。

**前澤 隆男 (64期) 松本市**

北海道の八山を登り、活火山の多さ(半分の四山)に愕きました。

**内川 啓 (68期) 安曇野市**

甲信越自動車道の料金所に勤務しながら安曇野と東御市の実家を行き来しています。もう数年は現役でいたいと思います。

**石川 久雄 (76期) 松本市**

武村洋治氏の「イラストにかける想い」(会報第一四号)を楽しく拝読しました。画業の更なる飛躍をお祈りいたします。

**宮澤 明雄 (82期) 松本市**

松本市にある私立の小学校、中学校を運営する学校法人の理事になりました。

**清水 あゆ子 (91期) 松本市**

相続手続支援センターで働いております。近年の「終活」についての関心の高さに驚きつつも、そのお心に添える仕事をしたいと思っています。

### 会報の題字作者 松岡翠風(仁太郎)氏 (39期) の逝去を悼む

本会報の題字作者 書画・篆刻家 松岡翠風(仁太郎)氏の逝去を悼みます

上田高校同窓会中南信支部が設立(平成6年)され6年を経た平成12年、小林茂昭(54期・初代支部長)より当支部の会報発行の指示がありました。支部総会に何度か参加されていた書画・篆刻家の松岡仁太郎氏に題字を依頼することになり、伊藤清志氏(71期・前幹事長)と安曇野の旧家であるご自宅を訪問し、敷地内の土蔵を改装した書斎兼工房(翠風草庵)でお話を伺いました。

松岡家の出目は飯田で飯田松岡城の城主の血筋との事、上田中学へは父親の仕事の事情で小諸より通った事、師事した書と篆刻の先生のお話等、題字を快諾していただいた後コーヒーをいただきながら柔和なお顔で話された姿が思い浮かべられます。氏はその後武蔵美大を卒業され、東京でデザイン・企画会社を経営する傍ら、趣味の篆刻絵画・書画を精力的に学ばれました。昭和60年代に郷里三郷のご自宅内に「翠風草庵」と名付けた書斎兼工房を拠点に創作活動に精進されました。全日展特別選考(篆刻部門)審査員として活躍され、自らも応募され第32回全日展で文部科学大臣賞受賞に浴されています。作品の多くは門下生の方々により「翠風印譜」として纏められています。平成24年11月逝去されました。(享年89歳)

謹んでご冥福をお祈りします。 合掌 久保田信二(61期)

今年(平成26年)春、松岡先輩の門下生の方々が安曇野市で、偲ぶ個展を催しました。ユーモア溢れる松岡さんの優しいエピソードをそれぞれが話してくれました。芳名録、初日のページで54期 石田先輩を見つけました。

松岡先輩、画もなかなかでした。会場で松岡先輩の描いた絵はがき、いただきましたが、お礼状として先輩にだせません。私が黄泉の国に行くのはもちよっと先です。持参します。それまで気長にお待ちください。

松岡先輩に乾杯！ 武村洋治(58期)

### グリーン輝く、夏の陣

#### 平成26年度 高校OB 対抗ゴルフ大会 参加報告 吉村 哲郎(66期)



今夏も県内16校27チームの精鋭が豊科カントリーに集まった。第17回SBC長野県高校OB対抗ゴルフ大会。上田高校勢は昨年引き続き3チームがエントリー、熱闘を展開した。

中南信支部代表である我々Aチームは、常連の武村洋治氏(58期)、大口静雄氏(59期)、吉村に加え、軽井沢から太田建國氏(58期)が応援参戦、立て直し役を務めてくれた。

当日は快晴微風、スコアを乱す要因なし。

我がAチームは、評価対象上位3人の平均が83点弱という好成績を得て、期待を胸に表彰式に臨んだ。ところが、シニアの部の表彰が始まると、何と13チーム中第6位として我がAチームが呼ばれてしまったではないか。

優勝は上田高校Bチーム、66期で固めた上田からの遠征組だ。加えて、59期の遠征隊・上田高校Cチームも第3位に輝いた。「我々Aチームは、優勝チームよりグロスで30点も少なくホールアウトしたのに。これが隠しホールでハンディが決まる新ペリア方式というものか」。この夜の酒には、さすがに悔しさが滲んだ。

何はともあれ、こうして「ゴルフの上田高校」の名を揺ぎないものにして大会は終わった。来夏を目標に、私の努力と精進の日々が始まる。